

《高崎高校アメリカ研修4回目（2026年7月16日）報告書》

今朝は昨日と違い青空が広がる天気の良い1日でした。日陰に入ると心地よい風が吹き、日本の夏の暑さとは違います。

午前中は昨日同様英語クラスです。今日の授業は面白かったという声、他国の生徒と仲良くなれてきたという声、日本人を怖がっているのかあまり反応してくれないなど様々ですが、すべて前向きに考えよりよくなるためにどうしたらよいかを模索しながら行動してくれています。

昼食の後は、地下鉄 Green Line に乗って、ボイルストン駅へ向かいました。土曜日の班別自主研修に向けてどの電車がどの方向に行くのかなど生徒たちも確認するようになりました。そして居眠りしそうな生徒は立ち上がって睡魔に立ち向かっています。その光景から、土曜日は安全第一で班別自主研修を全うしてくれると思います。

午後のアクティビティは BOCH Center です。今回のアクティビティのテーマは、「歴史・科学・芸術・ビジネス」です。BOCH Center は、1925 年に作られた劇場で、今年 100 周年を迎えます。当初はサイレント映画の上映を行っていました。アメリカで本場のヨーロッパを再現したという劇場内部は、随所に大理石が用いられ、本物の金、銀の装飾が施されており、思わず息を飲むような圧巻の造りでした。1960 年代からはミュージックシアターとしても使用され、ジョニー・デップやレディー・ガガ等名だたるアーティストが公演をした由緒正しき劇場であるため、生徒は皆ステージや装飾、有名な音楽家が残した楽器等を真剣に見て見分を広げていました。今回の案内人を務めていただいたスコットさんは、上記のようなシアターの歴史から、「芸術と科学の関わり」についてレクチャーをしてくださいました。施設内の科学的工夫についてもそうですが、様々な素材を使って一番音を響かなくさせる空間を作るゲームで、生徒たちの体験的な学びを通じて科学を感じる活動に、生徒は驚きと学びがたくさんあったようです。芸術と科学はチームワークが大切であり、独創的なアイデアと試行錯誤を繰り返す中で、よりベストな解決策を見つけることが大切なことであると、スコットさんは教えてくれました。その後劇場内の舞台と舞台裏、4F・3F・・・と見学させていただきました。とにかく 100 年の歴史を感じさせない綺麗な劇場でした。その後生徒からの希望もあったので、トレーダージョーンズを訪問しました。お決まりの手提げ袋やお土産を購入していました。

その後いったん夕食を食べるためタフツ大学に戻り、夜のアクティビティは午前・午後授業共同でダウントウン・クロッシング、サウスステーション、チャイナタウンへ約 100 名の生徒と一緒に地下鉄を利用して見学しました。大学に帰ってきたのは 22 時過ぎとみんなへとへとだと思いますが、根を上げる生徒は一人もいません。

明日は英語研修最終日となりますので、やり残すことがないように全力で授業に参加することをみんな誓ってくれました。



BOCH Center のスコットさんによる説明



一番音を響かなくさせる空間 BOX を作成中



実際に音量チェック



一番音量が小さかった優勝チーム



舞台の上から観客席をバックに



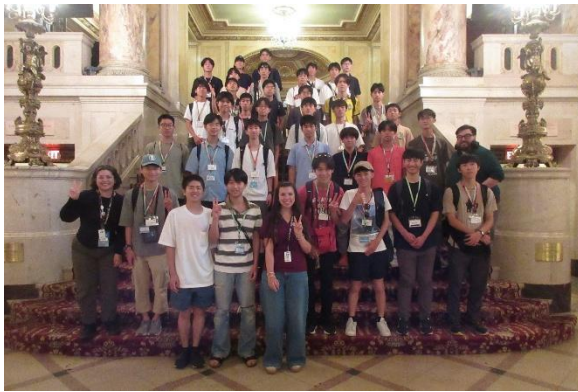
4 F の観客席から



大理石・金・銀を使った装飾



高額なバルコニー席で！！



最後はスタッフと一緒に



BOCH のサインの前で



夜のアクティビティ



サウスステーション前



チャイナタウン



他国の生徒達と地下鉄で移動

本日提出してもらったしおりの日記帳から “生徒の声”もお届けします。

午後のハーバード大訪問では、色々なところを回ることができた。ハーバード大の授業を覗き見すると、全員が真面目に授業を聞いていて、私の英語クラスの光景が世界の標準ではないと確信した。また、そこでは、現役生の依田さんに話を聞くことができ、彼女も私と同じ医学の道を志しているようで、刺激をもらうことができた。

Lechmere では、ボストンで活躍している陸さんの話を聞くことができた。彼は、日本と

アメリカを比較していくことが大切だと言っていた。

私はこの 2 人の話を聞いている時に、正直に言うと羨ましかった。彼らは幼い頃から海外にいて、英語に触れる機会が多くあり、その経験が手に入りにくいものだからだ。先生は、「将来サポートしてもらえるように、優秀な人とコネを作るのが大事なんだ」と言っていたが、私は彼らに助けてもらうのではなく、彼らと対等になりたい。もし私が彼らと同じ環境にいたら、「自分も同じようになれたかも」と思ってしまう。だから「恵まれている」人を羨ましく思ってしまう。ただ、今日彼らに会うことができた私もまた「恵まれている」のは事実だと思う。現状を最大に活かしてこそなのではないかと思った。